

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

かながわアドバンスサポート 第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：横浜市 芦穂崎保育園	種別：横浜市立認可保育所	
代表者氏名：佐伯秀子	定員（利用人数）： 120名	
所在地：横浜市鶴見区鶴見中央2-13-29		
TEL：045-501-5389	ホームページ： https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 1955年7月		
経営法人・設置主体（法人名等）：神奈川県横浜市		
職員数	常勤職員： 22名 非常勤職員 32名	
専門職員	園長 1名 事務員 1名	
	保育士 40名	
	看護師 1名	
施設・設備の概要	保育室 8室 園庭 865.48㎡	
	ホール 1室	
	産休明け保育室 1室	
	厨房 1室 敷地面積：1473.28㎡	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

○こどものあるがままを愛し、慈しみ、こどもが自分を「かけがえのない存在」と感じ、自分らしく主体的に生きていくことができるように保護者と共にこどもの育ちを支えます。

【保育方針】又は【基本方針】

○保護者や地域と協力し合ってこどもの人権と最善の利益を守り、こどもと真摯に向き合い、その成長を適切に援助できるよう保育します。

【園目標】

○夢中で遊ぼう、一緒に楽しもう

【保育姿勢】

○「じぶんがすき、みんながすき」と感じられるよう、一人ひとりの思いを受け止めこどもの心に寄り添います。

○豊かで多様な環境を整え、こどもの「やってみたい」気持ちに応えます。

○保護者とこどもの成長を喜び合い、協力して子育てをしていきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

横浜市芦穂崎保育園は、1955年（昭和30年）7月に定員60名で開設され、1997年（平成9年）に増改築を行い、定員を120名として再スタートし、現在に至っております。現在の在籍児童数は、109名です。

園はJR鶴見駅より歩いて8分のところに立地し、建物は鉄筋コンクリート2階建てで、建物の総面積は608㎡です。敷地面積は1,473㎡であり、建坪を300㎡とすれ

は、園庭は1,100㎡以上となり、かなり広い面積を有しております。

園庭には、みかん、柿、キウイなどや野菜畑があり、子どもが喜んで遊びまわっています。

【園の特徴】

子どもが「やってみたい」という行動を大切にしている保育姿勢に則って、子ども達は広い園庭で自由に遊んでいます。

園の保育目標「夢中で遊ぼう、一緒に楽しもう」を目標に、のびのびとした子どもの姿が、園庭でも観察されています。

園では地域の子育ての中心となる施設として、園庭開放（身体測定、水遊び、絵本貸し出し、おたのしみタイム）、育児相談、育児講座（プレパパプレママ講座など）、交流保育、育児支援イベント「あつまれえがお」や、一時保育の受け入れを積極的に行っています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月8日（契約日）～ 2023年12月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 保育の「見える化」に注力し、保護者からも評価されている

園は、保護者が子どもをお迎えの際に必ず目を通す、「子ども全員の日中の遊び、活動の写真とコメントからなるドキュメンテーション」を掲示し、迎えに来た保護者が手に取って、子どもの昼間の活動を実感することが出来るようにしてあり、保護者の方々からも評価されています。

2. 「KJ法」を用いた「保育内容」の「見える化」

職員たちは、自分達の保育の質に関して絶えず向上を目指しており、カリキュラム会議の際に職員一人ひとりの意見を模造紙に書き込み、関連する内容を線で結び、子どもの活動とそれにかかわった保育士の働きかけを可視化しています。この数多く書き込まれた模造紙を各クラスの壁に貼りだし、保護者にも見てもらっています。職員からの説明で、保護者も保育者の保育の視点を確認することが出来ます。KJ法の利点は、①アイデアの可視化、②考え方の論理的整理、③少数意見の活用、④問題点の洗い出し、⑤参加メンバーでの情報の共有などです。

3. 職員会議、カリキュラム会議は、メンバーを入れ替え4回開催

職員数54名の大型園であるため、勤務時間の異なる多くの職員の出席を得るため、各会議の内容を、時間をずらし、メンバーを入れ替えて、4回も開催し、情報の共有化を図っています。

◇今後更なる努力を期待される点

1. 大型園での職員の情報共有に更なる努力を、ICT活用の促進

本園は園児120名の大型園であるため、職員数も54名で保育にあたっています。各職員はそれぞれ、勤務時間が異なり、雇用形態が異なるため情報の共有が難しいところがあります。ICT活用による情報共有など活用拡大が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

芦穂崎保育園は、平成30年に第三者評価委を受審し、5年ぶりの受審となりました。職員数が多いため、準備に時間を要すると考え、園長、主任そして職員同士のグループごとに自己評価票の内容を確認し、話し合いを重ねていきました。各グループの話し合いでは、職員の一人ひとりの考えを確認しながら、保育の取り組みやお互いの気づきを出し合い、その後、会議で全グループの評価内容のすり合わせを行いました。話し合いでは、職員が日々の保育で大切にしている事や園での工夫事例などをあげて園の良い点や課題などを出し合いました。その中で職員それぞれが園に対しての理解が深まり新たな気づきの機会にもなりました。また、話し合いでは意識して声を出すことの大切さと、職員皆で共有することでチームワークにつながり大変、有意義な時間となりました。これからもさらに職員間の連携を深め、子どもたちの健やかな成長と、安全、安心保育を行なうために「保育の語り合い」と「風通しの良い環境づくり」を目指しより一層、職員一同力を合わせていきたいと思っています。

最後に、受審にあたりご尽力いただきました評価機関の方々、そして、保護者の皆様にはご多忙中にも関わらず、たくさんのアンケートへのご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め職員で話し合い園運営を進めていきたいと思っています。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり